古石ひでさと4期目に向かっての議会活動　ひでさと

古石　後援会だより

URL：http://古石.com/

第　３９１６号
発行令和３年１１月
古石　ひでさと後援会事務所
岩見沢市幌向南１条１丁目
TEL　２６－２２２６

市政についてご提案、ご意見などがありましたらお聞かせください。

E-mail-furuishi@gray-plala.or.jp

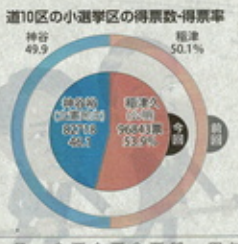
稲津氏各地で安定得票

稲津氏 各地で安定得票

「空知重視」が奏功

無党派層 互角の勝負

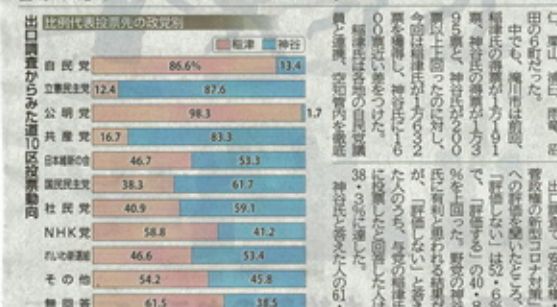
衆院選道10区の結果分析



7市町で逆転

今回の選挙区では、5つある激戦区となった4年前の前回と同様、大激戦が予想されたが、結果は6割超獲得の稲津久氏(63)が各市町村で安定した得票を重ね、立憲民主党前職の神谷裕氏(53)に快勝した。各後援会の支援者や有権者たちの動きから分析した。

（衆院選道10区取材班）



は稲津氏の19,643票で、今回は7市町で逆転を果たし、快勝につなげた構図が見て取れる。逆転したのは滝川市に加え、上砂川、由仁、栗山、浦臼、南幌、昭和の6町だった。

中でも、滝川市は前回、稲津氏の得票が1万1911票、神谷氏の得票が1万3795票と、神谷氏が2000票以上回ったのに対し、今回は稲津氏が1万6332票を獲得し、神谷氏に1600票近い差をつけた。

稲津氏陣営の自民党議員と連携、空知管内を徹底して回った戦術を採り、農民組織の支援を受けた神谷氏の地盤をも切り込んだ格好だ。稲津氏は有権者の2割を占める農業者の支持を固めた。

出口調査で「安倍政権・菅政権の新型コロナ対策への評価を聞いたところ、「評価しない」は52・6%で、「評価する」の40・8%を上回った。野党の神谷氏に有利と思われる結果だが、「評価しない」と答えた人のうち、与党の稲津氏に投票した割合は38・3%に達した。神谷氏と答えた人の61・7%には及ばないものの、4割近くが与党候補に投票したことになる。稲津氏は選挙戦の期間中、厚労副大臣だった時、ワクチン確保に尽力した成果を強く訴え続けており、その訴えが有権者に一定程度届いたと見られる結果だ。

選挙戦に入る直前から、7%にとどまらないの情勢調査などで、4割近くの人がコロナ対策の評価には関係なく、与党候補に投票したことになる。稲津氏は選挙戦の期間中、厚労副大臣だった時、ワクチン確保に尽力した成果を強く訴え続けており、その訴えが有権者に一定程度届いたと見られる結果だ。

選挙戦に入る直前から、

投票率 前回並み64・80%

道内選挙区では最高

10月31日に投開票された衆院選道10区（空知、留萌管内）の投票率は64・80%で、前回（2017年）の65・16%を0・36ポイント下回ったものの、7年前の前々回を5・95ポイント上回り、前回並みの水準を維持した。

北海道全体の投票率58・79%を大きく上回ったことに加え、道内12小選挙区の中で最も高かった。

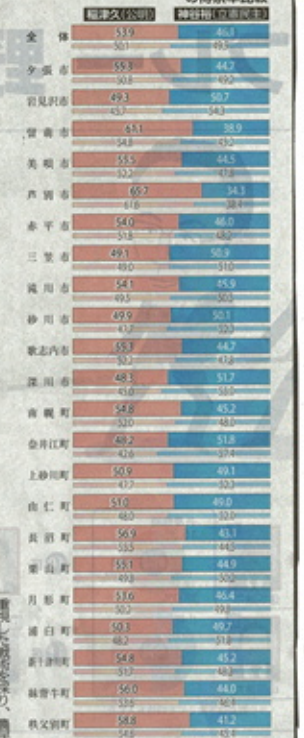
コロナ禍で行われる総選挙とあって、投票率への影響が懸念されていたが、前回に続いての与野党一騎打ちとなったことなどから、関心が高まったとみられる。

若年層が支持

出口調査で、支持政党を尋ねたところ、「支持する政党はない」と答えた無党派層は16・7%に達し、自民党の36・1%、立憲民主党の24・9%に続き、3番目に多かった。

年代別での投票行動をみると、10代で神谷氏に投票したと答えたのは33・3%、20代で31・1%、30代で39・2%だった。結果から若年層ほど稲津氏支持で、年代が高くなるにつれ、神谷氏への支持が上昇する傾向がくっきりと浮かんだ。70歳以上では神谷氏との差が51・5%だった。

伝統的に保守が優位の留萌管内に対し、空知管内は「民主王国」と言われてきた。出口調査からは、若者の「民主離れ」が進んでいる状況も浮かんでいる。



共産と共闘 執行部に不信

参院選へ「中道」求める声

野党第1党の立憲民主党が衆院選で公示前の議席を下回り、枝野幸男代表ら幹部の辞任を求める声が上がるなど党内に動揺が広がる。党執行部が主導した共産党との野党共闘にも批判が集中。日本維新の会や国民民主党が「中道路線」で議席を伸ばす一方、立憲は党勢維持に欠く議員の落選も相次いだ。執行部の求心力が急落する中、来年夏の参院選に向け、どう体制を立て直すか。正念場に立たされている。

（田島工幸、祁山青緑）

「僅差まで迫った選挙区で競り勝てなかった」。立憲の枝野氏は1日、記者団にこう説明した。立憲は96議席となり、公示前の110議席から後退。福山哲郎幹事長も同日、記者団に「1万票以内の差で負けた小選挙区が31あった」と悔しさをにじませた。党内には「まさか議席を減らすとは」と衝撃が広がる。

共闘に対する野党幹部の主な発言

※発言はいずれも1日

枝野幸男・立憲民主党代表

「（野党共闘は）一定の成果があった。どういうやり方が一番効果的か、しっかり票を分析したい」（東京都内で記者団に）

志位和夫・共産党委員長

「野党共闘は一定の効果が出たのは間違いない。共闘の大義、魅力を伝えきれなかった」（党本部の記者会見で）

玉木雄一郎・国民民主党代表

「現実路線を貫かないと国民から信頼されない。外交安全保障政策が違う共産党とは（連携）できない」（都内で記者団に）

立憲は共産や国民、れいわ新選組、社民の5野党で213選挙区の候補者を一本化。自民党幹事長経験者らを破る「金星」もあげ「他党の票がそのまま積みされた」との評価がある一方、5野党の候補者が当選したのは50選挙区と約4分の1にとどまった。安全保障などで主張の異なる共産との連携が前面に出過ぎれば無党派層で「逃げる票」もあるとして、党内には「共産と組んで離れた支持者もいる」との見方も強い。

衆院選では「是々非々路線」の維新が公示前の約4倍となる41議席を獲得した。「中道路線」「対決より解決」を掲げる国民も3議席増の11議席となった。

立憲は江元清美前代表や平野博文選対委員長ら党幹部が落選し、比例票も伸び悩んだ。維新や国民の躍進を受け「主張を『真ん中』に戻すことが必要」（中堅議員）との批判も漏れている。

野党共闘に否定的な国民の玉木雄一郎代表は「有権者は立憲・共産ではない受け皿を求めている」と分析。立憲の最大支援組織である連合の芳野友子会長は、共産との連携に関し「連合組合員の票が行き場を失ったのでは」と指摘。参院選での共産との共闘も「認められない」とけん制した。

共産は野党共闘について「日本の政治を変える道は共闘しかない」（志位和夫委員長）として参院選でも維持する構えを崩さない。枝野氏も「一定の成果があった」としつつ、参院選の対応は「細かく票を分析したい」と態度を保留した。

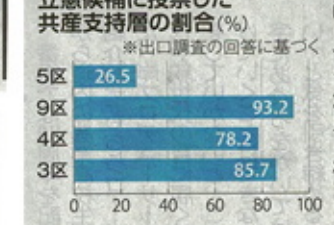
枝野氏の進退について、周辺は枝野氏が旧立憲を立ち上げた経緯などから「立憲は文字通り、枝野代表の『オーナー企業』だ」とし、執行部も代表を代えにくいと指摘。「枝野1強」との不満は以前から党内にくすぶり、敗戦で噴出する可能性もある。

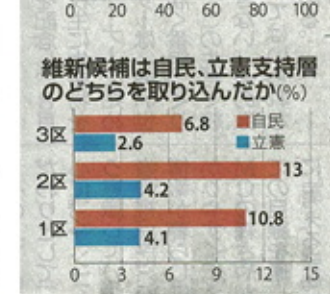
共産層の立憲支援ばらつき

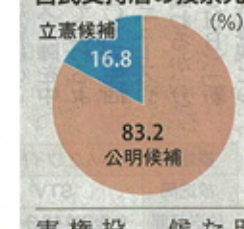
道内出口調査 維新、自民層に浸透

北海道新聞社は10月31日投開票の衆院選で行った出口調査で、支持政党別の投票行動を尋ねた。共産党が候補を取り下げ立憲民主党と一本化した道3、4、9区を比べると、共産支持層が立憲候補に投票した割合にばらつきが見られたほか、1～3区の日本維新の会の候補には自民支持層が比較的流れた。一方、自公連携の象徴区の10区で、自民支持層のうち公明候補に投票したのは8割強だった。

共産は公示直前に3、4、9区で候補を取り下げ、立憲に一本化した。共産支持層のうち立憲候補に投票したと答えた人の割合は3区85・7%、4区78・2%、9区93・2%。割合が高い9区で勝利した。一方、立憲、共産の候補が競合した5区では共産支持層の68・7%が共産候補に入れたと回答し、26・5%が立憲候補を支持した。







維新は比例票の掘り起こしを狙い、大票田札幌に3人を擁立。維新の参戦で自民と立憲、どちらの票が食われたか。自民支持層で維新に投票したと答えた人の割合は1区10・8%、2区13・0%、3区6・8%。立憲支持層で維新に流れたのは1区4・1%、2区4・2%、3区2・6%で、単純に比較すれば、立憲より自民の支持層が取り込まれた可能性がある。

道内小選挙区で唯一、与党のうち自民ではなく公明が候補を立てた10区では、自民支持層の83・2%が公明候補に投票したと答えた。残る16・8%は立憲の候補を選んだという。

調査は全道360カ所の投票所で、投票を終えた有権者約2万1千人を対象に実施した。（西依一憲）

フォーカス FOCUS

首相 沈静化急ぎ再始動

後任幹事長に茂木氏

参院選にらみ実績急ぐ

岸田文雄首相は1日、衆院選で「自民党が国会全体の過半数を確保した」ことを踏まえ「直ちに（次の）絶対安定多数に向けた取り組みを再始動したい」と述べた。党内に重鎮を与えた政権の求心力を高める狙いがある。

後任の幹事長には、茂木敏充外相を起用する方向で調整に入った。茂木氏は岸田氏の総裁選出馬を支えた最大派閥・麻生派（志公会）出身。来年夏の参院選をにらみ、党運営の要職に実力者を配置する。

第一次岸田改造内閣は、自公、日本維新の会が過半数を確保した衆院選の結果を受けた政権基盤の強化が最大の課題だ。

岸田氏は当初、衆院選後に「渡りに船だった」と語ったとされる。

自民党内では、総裁選で岸田氏を支持した甘利氏の後任人事をめぐり、調整が難航した。甘利氏は「選挙に専念したい」と幹事長就任に慎重な姿勢を示したが、岸田氏は「選挙の顔」として甘利氏の続投を求めた。

甘利氏は、衆院選の公示直前に、自身が「政治とカネ」問題で批判を浴びたことを受け、「一つ一つ説明をしてスピード感をアピールしていきたい」と語った。

ただ、政策実現には、ハードルが立ちはだかる。当面の焦点は、経済対策に盛り込む財源をめぐる攻防だ。

対策や財政規模など、公明党は10月19日の党首会談で「18歳以下への10万円相当の給付を求めている。一方、自民は「自民党が主張している給付のあり方と重なる部分がある」と慎重な姿勢を崩さない。

自公間では、国会議員に必要な定数の3分の2（310議席）を確保した。ただ、公明党は「3分の2ありきではない」と強調しており、自公だけでは衆院で再可決できない。

自公は、政権運営に「2025年度に国債発行額を22年度当初予算比で半減させる」との財政健全化目標を堅持することを確認した。コロナ対策で20年に行った1人10万円の現金給付は再び行わない。

岸田氏は、立憲民主党の枝野幸男代表が「分配なくして成長なし」と訴えたことを念頭に、「成長と分配の好循環」を掲げる。

岸田氏は、安倍晋三元首相や麻生氏と会談し、党役員人事や政権運営について意見交換する。

現金給付調整必要

自公、3分の2下回る

9年ぶり 衆院再可決できず

衆院議長の任期の満了に伴う衆院選挙は1日、自民党が261、公明党が32の計293議席を確保し、自民の過半数と公明を合わせた与党の3分の2（310議席）を上回った。

自公は、政権運営に「2025年度に国債発行額を22年度当初予算比で半減させる」との財政健全化目標を堅持することを確認した。コロナ対策で20年に行った1人10万円の現金給付は再び行わない。

岸田氏は、安倍晋三元首相や麻生氏と会談し、党役員人事や政権運営について意見交換する。

衆院議長 細田氏で調整

細田博之氏

自民党は、次期衆院議長に細田博之元総務会長で調整に入った。

細田氏は衆院議員歴8回、党最大派閥の細田派の会長を務める。前任の大島理森氏は2019年の議長就任後、細田派を離れ党内の中立の立場を貫いた。

細田氏は衆院議員歴8回、党最大派閥の細田派の会長を務める。前任の大島理森氏は2019年の議長就任後、細田派を離れ党内の中立の立場を貫いた。